

八、巻菱湖書軸

解説

巻菱湖は江戸後期の書家。一号史料の市河米庵・貫名海屋と並んで「幕末の三筆」と称された。安永六年（一七七七）越後国福井村の内藤家（母の実家）に生まれた。父は館徳信。幼時に両親を亡くし一家をたてて巻と改姓した。名は大任、あるいは任。字は致遠・起巖、通称は喜藤太のち右内。号は弘斎・菱湖。寛政七年（一七九五）、十九才で江戸の亀田鵬斎に入門し、詩学・書を学んだ。中国の趙子昂・薰其昌を学び、優雅清楚な書風で知られる菱湖流の一波を立てた。門下に中沢雪城・大竹蔣塘らが有名である。天保十四年（一八四三）、江戸で没した。